

11/15
2018年第1315号
(毎月5、15、25日発行)

大阪府歯科保険医協会
敬 志岐 会
大 市浪速区幸町1-2-33
電 話(06)6568-7731(代表)
http://osk-net.org/
●定価・年間10,000円 月1,000円
●1977年5月23日第三種郵便物認可

現在自由標榜制度のため、6割程度の歯科医療機関が一般歯科と小児歯科を併記標榜している。



「一部完了者」「未処置者」が大きく増えていることなどを挙げ、「受診出来ない患者がいることを放置していいのかが我々に問われている」と強調。歯科医療改善の必要性を訴えた。

歯科医師と学校の連携と質の高い小児の口腔ケア

順序・乳歯列を説明できる▽歯列発育に伴うう蝕好発部位の変化を説明できる▽妊婦の口腔ケアを説明・指導できる——こと。学校歯科保健においては、▽小児歯科学、口腔衛生学の最新知識を説明できる▽CO、GOを診査し、事後措置を知っている▽口腔管理や口腔外傷のマネージメントが出来る▽養護教諭の質問に回答でき相談ののって活動できる——など、要求されるスキルがあると思ふ。

学校歯科健診では、検査方法の適正化やリスク検査を導入するなど、検査結果の格差が生まれないような研修や、学校側の体制として、養護教諭の歯科保健への積極的参加や、幼稚園や保育所から小中高校への個人データ共有などが求められる。また歯科医師の学校安全保健委員会への積極的参加など、歯科医師と学校の連携が強化されるなど、子どもたちの口腔健康格差を無くすために必要だと考えられる。

出来る限りの口腔崩壊や歯科健康格差が無くせたらと言っと思ひから多くの課題を列挙することになった。私は、いつも小児は成人を小さくしたものではないと強調している。子どもたちは、成長発達過程にある身体や精神の特徴、器官の大きさ、機能、形態など、成人とは異なっている。学校歯科医、一般歯科医の先生方に、小児歯科治療における幅広い知識や情報、スキルを身に付け、信頼される質の高い小児への口腔ケアの支援を実現していただけたらと思ふ。(おわり)



第15回 保団連歯科全国交流会

△歯科に関わる諸問題で活発な意見交流が行われた▷「医院と技工所双方の経営安定を」と訴える戸井副理事長＝10月28日、東京



最後に歯科医療費の総

子どもの口腔崩壊と歯科健康格差対策

③ 大学教授 西之島 香

子どもの歯科健康格差対策に当たって、歯科医師側に求められる課題もいくつかある。

その一つが小児歯科治療の専門的知識を持つことだ。歯の萌出年齢や順序、年齢とう蝕好発部位などの基本的な知識をはじめ、研修等を通じた小児歯科治療の知識を身に付けてもらいたい。

保団連歯科交流会

総力挙げて歯科改善を

歯科技工や施設基準で意見交換

全国保険医団体連合会は、歯科全国交流会を10月28日に開き、歯科技工、歯科衛生士の不足、施設基準などの様々な問題について、意見交換した。全国の41協会・医会から140人が集い、協会からは、小澤力理事長をはじめ役員5人が参加。戸井逸美副理事長が歯科技工問題について発言した。

其調報告で宇佐美宏保 団連歯科代表は、「現在の歯科医療は未曾有の危機と認識している」と強調。その理由について、

▽歯科医療にかかれない患者が多数生まれていること▽経営状況が極端に悪化し、個人の歯科医療機関が減少傾向にあること

を挙げた。また、宇佐美副理事長は歯科疾患実態調査結果から、補綴治療の「完了者」の割合が10ポイント以上減り、

問題▽歯科衛生士不足の問題▽今改めて新設された歯科初診をはじめ、臨床の現場と合致しない不合理な施設基準・診療報酬の問題——など今後の運動について活発に意見交換された。

「一部完了者」「未処置者」が大きく増えていることなどを挙げ、「受診出来ない患者がいることを放置していいのかが我々に問われている」と強調。歯科医療改善の必要性を訴えた。

戸井逸美副理事長は歯科技工問題について、「歯科医療の要である補綴分野の不採算を放置せず、適切な評価とすることとは当然だ」と強調。保団連提案を歯科医師、歯科技工士の双方が採算の取れるものにするよう求めた。また、不採算解消のため、「いかに歯科技工問題を社会問題化し、補綴分野の診療報酬引き上げを実現するか」という点で全国の英知を結集しようと呼びかけると会場から大きな拍手が起きた。

戸井副理事長が歯科技工で発言

社保研究部

こんな医院が選ばれる 個別指導への対策を解説



事例を挙げながら指導対策を解説する安積氏(写真上、大野氏(写真下))＝10月27日、マイドームおおさか



社保研究部は10月27日、マイドームおおさかで個別指導対策講習会を開いた。同部の安積中氏と大野貴志氏を講師に54人が参加した。

新年号への投稿を募集

新聞部は機関紙新年号への会員投稿を募集している。原稿は、①趣味②日常臨床③新年に思うこと④エッセイや俳句⑤旅行記⑥干支(亥)に関すること——など。600字以内。写真は、新年や冬にまつわる風景・人物・家族写真など。郵便やファクス(写真除く)、メールで新聞部まで。原稿は顔写真を同封。12月7日必着。FAX: 06-6568-0564 Mail: jun_tsu@doc-net.or.jp

また講師は、3カ月ごとに機械的に初診を算定しているなど、画一的診療や傾向診療、減多に生じない事例が頻発しているなど指導の対象になりやすい事例を示し、算定上の注意点を解説した。その他、「カルテ記載を中心とした指導対策テクニック」から、患者からカルテ等の情報公開を求められた場合の対応や、近畿厚生局が公開する「平成29年度個別指導(歯科)における主な指摘事項」から、特に指摘の多い項目を紹介した。

優しい小児歯科治療をするためのスキル (一部抜粋)

- 乳歯冠修復ができますか。既成乳歯冠を準備していますか
- 乳歯の根分岐部病変に関する知識
- 歯槽膿瘍の切開と搔爬
- 乳歯外傷が後継永久歯に与える影響を言えますか
- やってはいけない処置と今しかできない処置
- ugly duckling stageを知っていますか
- 上顎正中離開の原因をいえますか
- 無痛治療とはどういうことか知っていますか
- behavior controlを駆使(使い分け)できますか
- 経過観察は放置ではない
- ラバーダム法は非協力度の小児には必須です

出来る限りの口腔崩壊や歯科健康格差が無くせたらと言っと思ひから多くの課題を列挙することになった。私は、いつも小児は成人を小さくしたものではないと強調している。子どもたちは、成長発達過程にある身体や精神の特徴、器官の大きさ、機能、形態など、成人とは異なっている。学校歯科医、一般歯科医の先生方に、小児歯科治療における幅広い知識や情報、スキルを身に付け、信頼される質の高い小児への口腔ケアの支援を実現していただけたらと思ふ。(おわり)

求人情報の更新

協会ホームページの求人情報を11月15日に更新しました。URL http://osk-net.org/job/

歯界

富田林警察署の留置人逃走事件の容疑者には驚いた。奪った自転車の方引きを繰り返しながら、四国を一周。最終的には山口まで逃げおおせた。自転車の日本一周の旗を掲げ、写真撮影までしていたのだから、まさに大胆不敵である。事件は警察署の杜撰な管理も大きな話題となった。面会室のプザールは電池が抜けていたため作動せず、留置担当者はスマホを触って逃げ走りに気が付かなかった。凶悪事件の少ない日本ならではの平和ボケだろうか。哲学者パスカルが「人間は考える葦だ」と言ったのは何百年前か。私自身身重であるより、「パブロフの犬」になっている時間が多いように思う。歯科の診療は根治、印象、setなど慣れた手に従う。しかし、智歯抜歯などで危機が訪れた時はすぐに考える。